

平成31年度(令和元年度)

阿南第一中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

①「ユニバーサルな視点を取り入れた学校環境づくり・授業づくりを継続・発展させる」
②「基礎・基本を定着させ、それを活用した、思考力・判断力・表現力を育てるための授業改善を継続する。」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 校長 浮橋輝倫 教頭 仁木博史、中口崇 教務 橋本千恵
学年主任 片山徹、西村正雄、中村千恵 国語主任 前田直美
英語主任 美馬貴子 数学主任 橋本千恵

校長

浮橋 輝倫

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	継続的な読書の習慣が身につけている。授業に前向きに取り組み、書くことへの抵抗が少ない。基本的な計算方法は身につけている。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ②正確に、すばやく判断できることをめざし、集中して学習に取り組むことができる。	定期テストで正解率60%以上			
課 題	漢字の書き取りに弱さが見られる。また、計算方法がわかってもミスをしたり時間がかかったりする。時間をかけたドリルが必要である。	①授業の「めあて」と「振り返り」を明確にし、何を学習するのか、何がわかったのかを学習集団で共有させる。 ②複数教員による指導で繰り返しの練習に時間をかけ、小テスト等で学習内容の定着を確認し、必要に応じて個別指導を行う。				
				評価	次年度における改善事項	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	発表の方法や手順がわかる学習については、意欲的に発表し、真面目に取り組むことができている。	根拠を明らかにして、自分の考えを説明することができる。 自らの思考過程を振り返り、その思考過程を説明・評価することができる。	全国学力・学習状況調査・ステップアップテストでの無解答を少なくする。特に活用問題での無解答を少なくする。		
課 題	文章の要旨をとらえたり、多くの情報から必要な情報を選択し文章にすることが苦手である。また、主体的、自発的に課題を見つけて解決していく力が十分備わっていない。他の者と協力し意見を出し合いながら理解を深めていく活動がもっと必要である。	①学習活動の中で、自分の考えを筋道立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②アクティブ・ラーニングを意識した授業の展開を考える。	他の教員の授業を参観する「ふれあい授業」を実施し、指導力・授業力の向上を図る。		
				評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	学習環境のUD化の取り組みによって、学習への意識の高まりが感じられる。 落ち着いた授業態度であり、筋道を理解できている課題については主体的な取り組みが見られる。	UD化された落ち着いた学習環境で、課題や自主学習に積極的に取り組むことができる。 学ぶ楽しさや充実感を感じることができ、さらに学習を深めていることと主体的に考えることができる。	家庭学習時間一年生70分以上、二年生80分以上、三年生90分以上		
課 題	苦手分野を克服するための方法を考えたり、計画的な家庭学習を進めたりすることが十分でない。	自主学習ノートの提出を継続させ、その中でも内容が充実しているノートを他の生徒が共有できるようにする。家庭との連携を図る。 家庭学習・自主学習が「学んだことの振り返り」や「自分の思いや考えを書く」内容となるように課題を設定する。	家庭学習の状況を「見える化」して向上を図る。 「学習・生活アンケート」を実施し、その結果を三者面談で家庭とも共有する。		
				評価	次年度における改善事項

平成31年度(令和元年度) 学力向上ロードマップ

